

校長室より

第44号

「天空高き」



平成25年2月21日

## 第1回中六合同発表会・・・



当日はガスストーブ4台を設置して、寒さ対策をしましたが、短大体育館は寒かったですね。しかし、みなさんの発表は寒さにめげず熱のこもった素晴らしいプレゼンでした。

総合的な学習の時間「楽学」での取り組み、環境問題や国際理解をテーマに、中学生は各クラス代表が、高校生は学年代表が行いました。

各学年、クラスを代表しての発表ですから、発表者は、この日のために何回も練習を重ねてきたと思います。大勢の前で発表するのは慣れていないので、当然誰でも緊張します。そこで発表者を盛り上げるためには、聞く態度がポイントになります。聞き手は、しっかり相手の目を見て、どのような考えで、どんな内容を、どのようにして発表するのかを、ワクワク、ドキドキ感を持って聞くことが大切です。

学年が上がるごとに、みずみずしい豊かな感性で、多面的な視点で、各テーマをしっかり捉え、内容も深まっていました。パワーポイントも観る者に興味を惹きつける創意工夫がありました。発表態度も堂々としたものでした。その結果、楽学努力賞は中1ー1 坂田大夢君の「エジプト～食生活の変化～」に授与しました。緊張した中でも、原稿をしっかり頭に叩き込み、服装も演出を凝らし、わかり易い発表だったからです。でも、本当は、中1～S2の全代表者に楽学努力賞を授与したかったのが本音です。なぜなら本校の新しい伝統がここに誕生したのですから。次年度が大いに楽しみます。

社会では「問題も答えも自分で見つける」のが勉強。会社に入ったら「問題は自分で見つけて自分で解決する」

## 「ぐるぐるスクール」を終えて・・・



約1ヶ月前に、広島テレビから取材の依頼がありました。学校の中にテレビ局を入れるということに対して、少し不安がありました。しかし、テレビ局の方が『最近のニュースなどで、学校のいじめ問題など暗い話題が多い中、本当は生徒たちにとっては、「学校は楽しい場所」「学校は夢を描く場所」を伝える番組にしたい』というお話しをなされ、その趣旨に

賛同し、お引き受けしました。取材責任者の方は、何回も学校に来られ、地道に、誠意を持って、高水学園のことを調べてくださいました。18日の当日は生憎の雨でしたが、テレビ局の方々は、授業の邪魔にならないように、本当に気を遣って取材しておられました。どんな番組になるのか、楽しみです。スタッフの方々の誠実な対応を目の当たりにして、きっと素晴らしいものになっていると確信しています。3月2日の当日を皆さんと一緒に、ワクワクしながら待ちたいと思います。

昨年の10月に、宮城県高等学校文化連盟（高文連）主催による文芸部門部の総合文化祭が仙台文学館で開催され、文芸作品コンクール詩部門で石巻高校3年生の片平侑佳さんの作品が最優秀賞の榮譽に輝きました。この作品は多くの人たちの共感を得る普遍性を持っていると思います。その散文詩を紹介します。是非一読してください。

潮の匂いは。

片平侑佳

潮の匂いは世界の終わりを連れてきた。僕の故郷はあの日波にさらわれて、今はもうかつての面影をなくしてしまった。引き波ととともに僕の中の思い出も、沖のはるか彼方まで持っていかれてしまったようで、もう臆気にすら故郷の様相を思い出すことはできない。

潮の匂いは友の死を連れてきた。冬の海に身を削がれながら、君は最後に何を思ったのだろう。笑顔の遺影の口元からのぞく八重歯に、夏の日の青い空の下でくだらない話をして笑いあったことを思い出して、どうしようもなく泣きたくなる。もう一度だけ、君に会いたい。くだらない話をして、もう一度だけ笑いあって、サヨナラを、言いたい。

潮の匂いは少し大人の僕を連れてきた。諦めること、我慢すること、全部まとめて飲み込んで、笑う。ひきつった笑顔と、疲れて丸まった背中。諦めた。我慢した。“頑張り”に答えようとして、丸まった背中にそんな気力がないことに気付く。どうしたらいいのかが、わからなかった。

潮の匂いは一人の世界を連れてきた。無責任な言葉、見えない恐怖。否定される僕たちの世界、生きることを否定されているのと、同じかもしれない。誰も助けてはくれないんだと思った。自分のことしか見えない誰かは響きだけあたたかい言葉で僕たちの心を深く抉る。“絆”と言いながら、見えない恐怖を僕たちだけで処理するように、遠まわしに言う。“未来”は僕たちには程遠く、“頑張り”は何よりも重い。お前は誰とも繋ってなどいない、一人で勝手に生きると、何処かの誰かが遠まわしに言っている。一人で生きる世界は、あの日の海よりもきつと、ずっと冷たい。

潮の匂いは始まりだった。  
潮の匂いは終わりになった。

潮の匂いは生だった。  
潮の匂いは死になった。

潮の匂いは幼いあの日だった。  
潮の匂いは少し大人の今になった。  
潮の匂いは優しい世界だった。  
潮の匂いは孤独な世界になった。

潮の匂いは—————。

# 一般常識テスト(朝テスト)にチャレンジ!

久しぶりになりますが、昭和57年(1983年)に付属中学1年生~3年生、200名に実施された一般常識テストです。昨年亡くなられた第2代山本真喜雄校長先生が作成されました。上位は96点が8名。92点が34名でした。当時在籍していた保護者の方が多数おられます。家族でチャレンジしてみてください。

58.1.17

次の各文の下線部の読みかたをひらがなで答えよ。(16回の新聞より)

- 矛盾<sup>1</sup>感じ<sup>2</sup>つ<sup>3</sup>試練<sup>4</sup>の春、解答方式見直し<sup>5</sup>を(共通一次)
- 新日鉄釜石が<sup>6</sup>連覇<sup>7</sup>、<sup>8</sup>気迫<sup>9</sup>のFW、同大<sup>10</sup>圧倒<sup>11</sup>、終始<sup>12</sup>先手<sup>13</sup>で反撃を断つ<sup>14</sup> ○ 鮮やか<sup>15</sup>松尾<sup>16</sup>、多彩<sup>17</sup>な攻め、FWと一体<sup>18</sup>絶妙<sup>19</sup>のさえ ○ ロス大会へ調整<sup>20</sup>回<sup>21</sup>る ○ 「準備整った<sup>22</sup>」と力説<sup>23</sup>
- 円安<sup>24</sup>恐れ<sup>25</sup>慎重居士<sup>26</sup>に、「公定歩合<sup>27</sup>」で日銀<sup>28</sup>総裁<sup>29</sup>
- 核処理事業<sup>30</sup>継続<sup>31</sup>を確認<sup>32</sup> ○ エンジン供給<sup>33</sup>、トヨタ<sup>34</sup>に要請<sup>35</sup>
- 氷河<sup>36</sup>に転落<sup>37</sup>、奇跡<sup>38</sup>の生還<sup>39</sup> ○ 弔慰金<sup>40</sup>返せとは殺生<sup>41</sup>な

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25

( )年( )組( )番( )